

四十肩抱え新人声優さん応援 釣果自慢はしばらく封印します

風営法PTリーダー 茂木欣人



去年から左肩が痛い。今年50歳になったので、五十肩というべきかもしれないが大台を迎えた自覚がないので、四十肩だと思っている。さて、このコーナーでは、釣果自慢を定番にしてきた。昨年末には人生最大の成果を釣り上げたのだが、それらには触れずに違った話を。

このところ、「新人声優さん」の応援をしている。私はアニメの作品が好きで、あることで知り合った新人声優（深崎結菜）さんの活動を見て、ちよつと手を差し伸べよ

ゼムソンス (@themsons3) さんと茂木リーダー



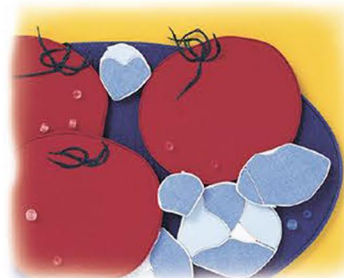
深崎結菜 (@yuunamisaki72) ともあちゃん

うという気持ちになったのである。TV報道などで地下アイドルのライブ風景は知っていたが、知識と体験は大違い。といっても、その深崎さんは、今はライブをやっていないので、「オタ芸」のようなLEDライトをぐるぐる回すような現場ではない。去年の春は、V

R関連企業のイメージキャラクター声優オーディションでがっちり投票して選ばれたり、その企業役員らと知己を得たりもした。他の声優さんらを応援していた若者たちには悪いが、小さなオーディションの場合、ある程度票読みをしながらやれば勝ち残る大人のテクを身につけた。他の声優さんらのコアな「オタク」連中、その応援ぶりには興味をそそられたりもした。

その深崎さんは、朗読劇にも出演した。運営側の事情で解散した「妄想はアイである」の朗読劇だった。20名ほどの新人声優ユニットで、舞台上に立ち役を演じていた。それまで休眠状態だったツイッタを再開し、その「アイある」メンバーの普段の活動にも興味を持つようになった。

国際展示場で何名かが同じブースでのコンパニオンをやっていることもあり、解散後も会う機会に恵まれた。そこでSNSメディアの怖い点に気付く。私はツイッター等で活動を知り、一方的に知己



を得ていると思っていたが、彼女らにしてみれば、私をテキスト上で知っているだけ。自己紹介して初めて「あ〜〜！」となる。

一方的に知っているだけなので、SNS上の距離感が近づくのは迷惑になるのを実感した。そうした交流があると、その子らに興味を持ち、イベントなどに参加してみたくなるのだ。

そこで元「アイある」メンバー（ゼムソンス）のライブに行ってみた。これを「押し増し」というようだ。応援する子を増やし「DD」と呼ばれる「誰でも大好き」という分類もあるようだ。3曲15分の持ち時間で、アイドルグループが複数登場する。終演後に「物販」というCDや「チェキ」の販売があり、交流やファンを増やすきっかけ、そしてこれが収入となるようだ。当然チェキとCDを購入した。

LEDライトを持参し、周りをマナて振ってみる。ああ左肩が痛い。腕があがらない。四十肩、早く治らないかな。